

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立第七小学校

1. 本年度の学力・学習調査結果の概要について

- ・国語の調査では、A問題（主に知識）の「読むこと」「書くことに」の領域については比較的良好な結果でしたが、B問題（主に活用）は全体的に課題の残る結果となりました。
- ・算数の調査では、A B問題ともに概ね良好な結果となりました。特に昨年度課題となっていたB問題の「図形」の領域については、大変良好な結果となり改善が見られました。
- ・理科の調査では、主として「知識」「活用」に関する問題とも、やや課題の残る結果となりました。エネルギーに関する問題については良好な結果となりましたが、物質、生命、地球に関する問題について課題の残る結果となりました。
- ・どの教科においても、記述式の問題に課題があり、無解答率がやや高くなる傾向が見られます。
- ・質問紙調査においては、「家の人と学校の出来事について話す」「理科の学習についての意識」の項目で肯定的な回答の占める割合が全国平均を上回っています。一方で、「自尊感情」「規範意識」「生活習慣」などの項目において、肯定的な回答の占める割合が低くなっています。

2. 各教科における成果と課題について

	成 果	課 題
国語 A 〈主として知識〉	<ul style="list-style-type: none"> ・話すこと・聞くことの領域の問題は、90%以上の児童が正答することができ、昨年度に続いて良好な結果となりました。 ・慣用句の意味と使い方を問う問題では、約85%の児童が正答することができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書き直す問題で、主語と述語のつながりが合っていない文章を選択できていない児童が60%と課題がありました。 ・相手や場面に応じて適切に敬語を使う問題に課題がありました。国語の授業だけでなく、日常生活の中で適切な敬語を使うことに慣れさせていく必要があります。
国語 B 〈主として活用〉	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いにおいて質問の意図をとらえる問題は87%以上の児童が正答することができ、良好な結果となりました。話し合いの参加者として相手の発言の意図をとらえることができています。 ・推薦文で、他のものと比較して書くことで、良さが伝わることを捉える問題では70%以上の児童が正答することができ、概ね良好な結果となりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記述式で答える問題の正答率は昨年を下回る結果となりました。特に、目的や意図に応じて自分の意見や考えをまとめて書く問題に課題がありました。 ・目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読んだり、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりする問題に課題がありました。無解答率が高くなった設問もありました。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">算数 A 〈主として知識〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・量と測定の領域において正答率が昨年より10%を上回る良好な結果となりました。込み具合の比べ方の問題は95%近くの児童が正答し、角の大きさを求める問題は、97%を上回る児童が正答する結果となりました。 ・図形の領域で、空間にあるものの位置を正しく表現する問題は80%近くの児童が正答することができ、概ね良好な結果となりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数と計算の領域において、1当たりを求める問題で、数量の関係を数直線上に表したり、小数を用いて立式したりすることに課題がありました。 ・円周率を求める式を問う問題の正答率が約35%と課題がありました。円周を求める式と混同した児童が多く、作業的・体験的な活動を通して理解できるようにすることが大切であると考えられます。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">算数 B 〈主として活用〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の領域において、知識・理解を問う問題は正答率が80%を上回る良好な結果となりました。数学的な考え方を問う問題は62%を上回る、おおむね良好な結果となっています。 ・数と計算の領域で、示された資料を基に問題と上手く関連付け、規則性に気付くことができました。70%以上の児童が理解していました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数量関係の問題において、資料とグラフを関連付ける力に課題がありました。また、グラフを読み取った結果を記述する問題では無解答率が高く、課題を読み取り表現する力に課題があることがわかりました。 ・記述式の問題に対する無解答率が高く、書くことへの苦手意識や問題理解に課題があることがわかりました。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">理科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーに関する問題は概ね良好な結果となりました。特に、電流の向きと大きさについて、実験結果を基にして、より妥当な考えに改善する問題は65%を超える結果となりました。 ・物質の科学的な思考・判断を問う問題では、正答率が90%を超え、良好な結果となりました。海水と水を区別するための方法を実験結果から判断することができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生命に関する区分において、人の腕が曲がる仕組みを模型に適用できるかどうかを問う問題の正答率が31%と課題がありました。 ・物質に関する観察・実験の技能を問う問題の正答率が55%を切る結果となり、課題がありました。器具の適切な操作方法を身に付けるために、目的や操作の意味を捉えることが大切であると考えます。 ・記述式の問題の正答率が25%以下と低く、課題が残る結果となりました。

3. 本校の学力向上に関する現在の取り組みについて

本校の研究テーマ「子どもが主体的に取り組む授業をめざして」

朝の時間の有効活用



朝読書のようす

毎週月・火・水・金の8時30分～45分まで朝の読書に取り組んでいます。読書を通して、全ての学力の基礎となる国語力の向上と、豊かな心を育むことをめざしています。また、毎週木曜日の同時刻には朝学習を実施しています。その時々習っている内容の復習プリントなどを用いて反復学習を行い、基礎学力の定着を図っています。

授業改善

話し合い活動を取り入れることにより、主体的な学びとなる授業の研究に取り組んでいます。具体的には、①自分で考える→②小グループで意見を交流する→③全体で意見を交流する→④自分で再度考え練り上げる、という流れを基本とし、自他との対話を通してより深い学びができることをめざしています。



話し合い活動のようす

学習支援

どの子にもわかりやすい授業をめざして教室環境や授業の組み立ての整備に努めています。具体的には「黒板周辺の掲示物を減らし、注意力が散漫になることを防ぐ。」「学習の『めあて』を明示し、学ぶ内容を意識できるようにする。」「授業の流れ（導入→展開→まとめ→振り返り）を提示し、学習がどの段階かわかるようにする。」などの工夫に取り組んでいます。また、4～6年生の算数では習熟度別の少人数授業にも取り組んでいます。



少人数指導の様子

外部人材の活用



3年生のチューター学習会

きめ細やかな個に応じた指導をめざして、1年生を中心に、外部より、「さやまっ子ティーチャー」の方をお招きし、児童の学習に支援をしていただいています。また3年生では、毎週木曜日にチューターの方をお招きし、希望者対象の放課後学習会を実施しています。理科や体育の授業でも外部の支援員の方にご協力いただき、子どもたちの学習のサポートをしていただいています。

4. 今後の取組みの方向性について

授業づくり

- ・話し合い活動を取り入れ、学び合う喜びを感じさせ、より深い学びにつなげられるような授業づくりをめざします。
- ・チャイム着席や、先生や友達の話をしっかり聞くなどの授業規律を大切にしていきます。
- ・宿題や自主学習など家庭での学習を充実させ、基礎学力の定着を図り、めあてを持って自ら学習を進められるような取組みの工夫をします。
- ・課題に対して自分の考えをノートに書き、ペアで交流したり、グループで話し合ったりする子ども主体の授業づくりを推進していきます。

集団づくり

- ・異年齢集団での活動を多く取り入れることにより、周りに対する思いやりの心や、自尊感情、自己有用感を高めます。
- ・人権教育に取り組み、違いを認め合う集団づくりをめざします。
- ・一人ひとりの児童と積極的にコミュニケーションをとり、児童の困り感を見逃さず、寄り添った生活指導をめざします。

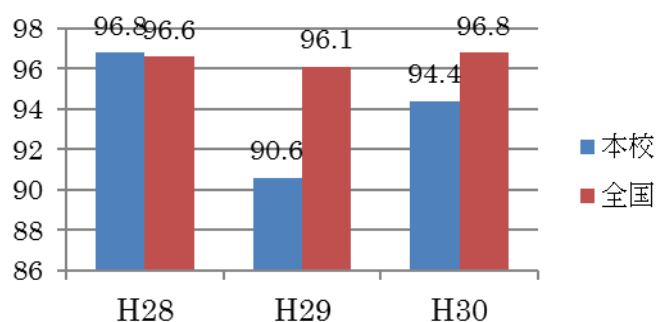
体力づくり

- ・年間を通して運動朝礼を実施し、体力向上を目指すとともに、規律正しい集団行動の力をつけていきます。
- ・アウトメディアチャレンジなどを通して、生活習慣を見直すとともに、ゲームやスマホの使い方を啓発していきます。

5. 児童質問紙調査の結果の概要

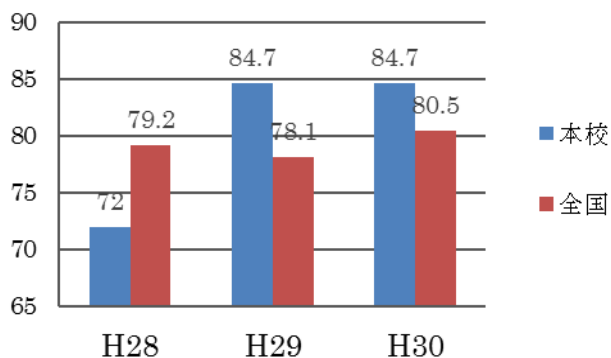
〈取組みの成果があらわれていたり、特徴的であると思われる事項について〉

いじめはどんな理由があってもいけない



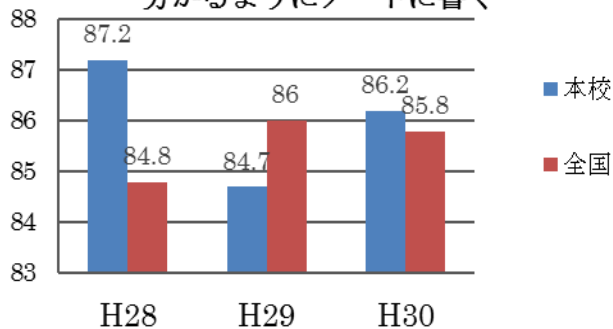
昨年度低下した「いじめはどんなことがあってもいけない」という意識を持つ児童の割合はやや回復し、95%近くまで増えています。昨年度、「いじめ撲滅」を掲げる講師の先生に来ていただいたり、児童会が呼びかける運動を行ったりしました。より一層、人権教育にも力を注いでいきます。

家の人と学校の出来事について話す



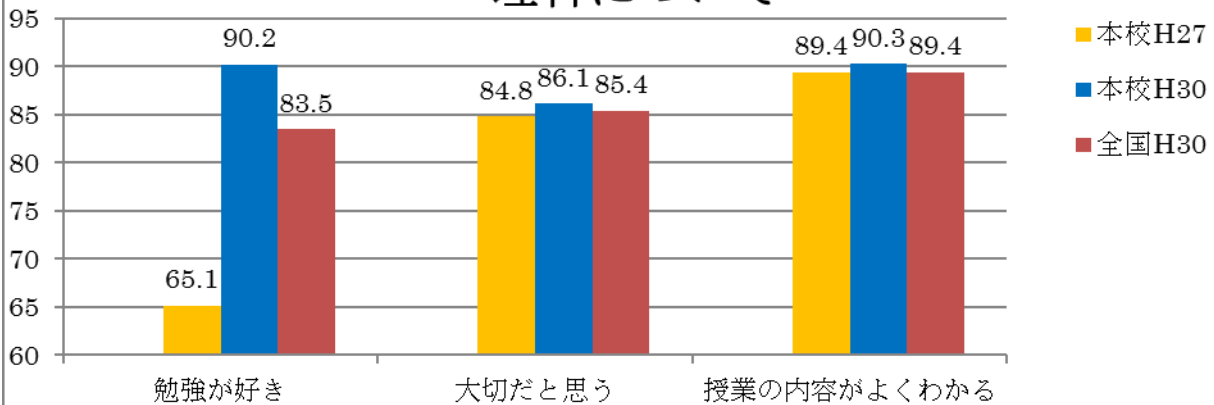
「家の人と学校の出来事について話をしますか」の質問に「している」「どちらかといえばしている」と肯定的に答えた児童が、一昨年は72%でしたが、昨年、今年と85%近くまで増えています。学校で取り組んでいる「アウトメディアチャレンジ」などをきっかけに、これからも家庭での団らんの時間を大切にさせていただけると嬉しいです。

算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書く



本校の算数の授業では、ノート指導に重点を置いて取り組んでいます。授業の中で課題に対して、自分の考えを書く時間を確保し、様々な解決方法を出し合っています。算数の「活用」の問題が良好な結果となった要因であると考えられます。そのような積み重ねを今後も続けていきます。

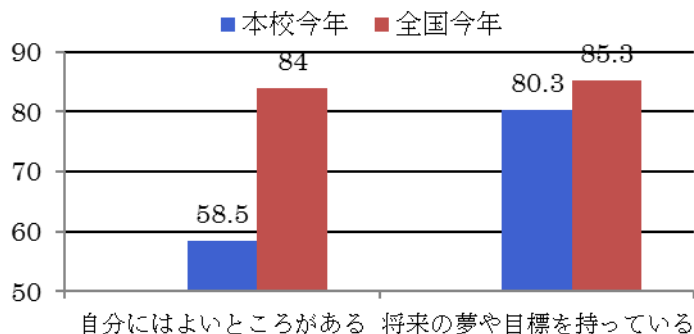
理科について



本校の児童は、理科の学習に対して「好きである」「大切だと思う」「よく分かる」と肯定的に回答する児童が多いという結果となっています。H27年度の調査や、全国平均からも肯定的な回答が多いことが分かります。学習の導入で、児童の興味・関心を引くような工夫をしたり、観察や実験を行う経験を多く設定したりした成果であると考えられます。これからは、児童が自ら観察や実験の計画を立てたり、分かったことを説明したり、学習したことを生活に生かしたりすることができるような授業づくりをめざします。

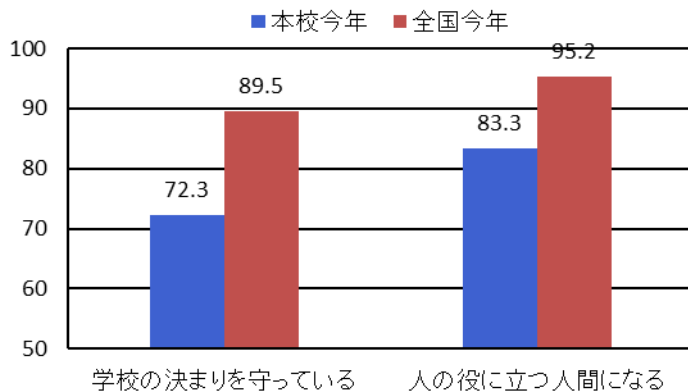
<今後に向けて、課題と思われる事項について>

自尊感情に関する項目



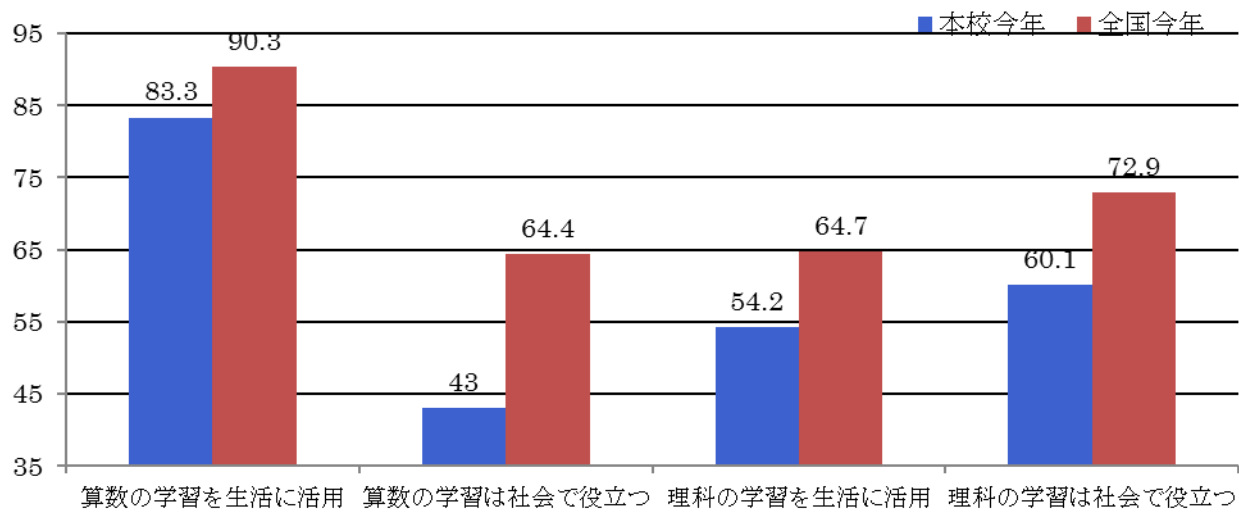
自己有用感、自尊感情の低い児童がいます。友だちや先生から「ありがとう」の感謝の言葉をカードにしてもらったポカポカチャレンジ等の取り組みや、児童が主体的に学べる授業の工夫改善に取り組んでいます。今後、様々な場面で「できた」「がんばった」と思える場面を増やし、達成感を味わわせたいと思います。

規範意識に関する項目



本校児童の規範意識は、課題の残る結果となっています。前述したように「いじめは、どんな理由があってもいけない」と回答した児童は95%近くもいることから、仲間意識は強い集団と言えますが、ルールを守ったり、人の役に立ったりすることへの意識が弱い場面があると考えられます。一層、道徳教育の推進を図っていく必要があると考えています。

学習内容の活用について



本校児童は前述したように、特に理科の学習に対して「好きである」「大切である」「よく分かる」と肯定的に回答する児童が多いという結果となっています。しかし、学習したことを、生活に活用したり、社会で役立つと考えたりすることに対しては肯定的に回答している児童が減っています。授業の中で活動しているときは、課題に対して意欲的に取り組み、考えをノートに書いたり、実験や観察をしたりしていますが、日常生活に置き換えて考えたり、社会で役立てていこうとする意欲や態度に結びついていないと考えられます。学びの意味を感じ取ることができるよう、授業の改善に取り組む必要性を感じます。

6. 保護者・児童のみなさんへ

児童のみなさんへ

- ・七小の皆さんは、家庭で、自分なりに計画を立てて勉強に取り組んでいる人が多くいます。学校で学んだ事の中から、さらに調べてみたいことや生活に役立てていく方法などを見つけて、学習を深めていってほしいと思います。
- ・いじめを許さない気持ちを持っている皆さんは、これまで以上に仲間を大切にして活動することができると思います。しなければいけないこと、守らなければならないことをきちんとしたうえで、自信をもってこれからも楽しい学校生活を送ってください。

保護者のみなさんへ

- ・学校のこと、友だちのことをお子さんとしっかりお話をしてくださっているご家庭が多く、とてもうれしく思います。自らやるべきことにきちんと取り組み、将来の夢や希望を持つことができるようこれからもご家庭でも、お子さまの頑張りを認め、褒めて育てていただけるようお願いします。
- ・今後、子どもたちが自らめあてをもち、意欲的に授業に参加することができるように授業の工夫改善に努めてまいります。ご家庭でも、学校での学習や読書の大切さなどをお話してください。また、「早寝、早起き、朝ごはん」といった規則正しい生活にもご留意いただき、子どもたちが心身ともに健やかでたくましい成長を支援していただきますようご協力よろしく申し上げます。